

Ⅱ. 需要動向調査

1. 需要動向調査について

○本調査の目的

市内事業者が販売する商品や、提供する役務・サービスについての需要動向に関する情報、並びに地域経済動向に関する情報を整理・提供することで、事業計画の策定や商品開発、新たな情報を得るためのきっかけづくりとすることを目的とします。

○本調査書作成の方法

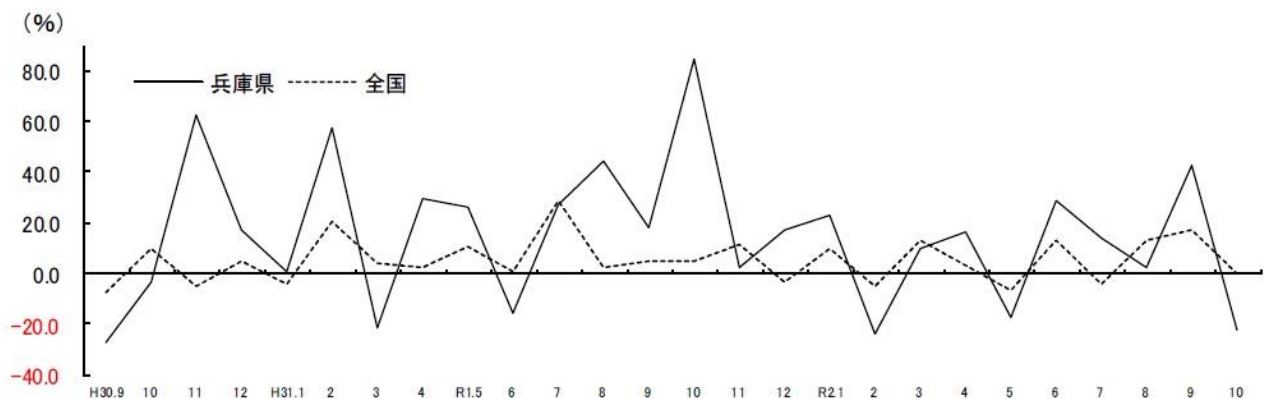
需要動向の情報となる国や県の調査結果等をもとに、近隣から全国的な範囲まで含めた動向を収集します。

1. 業種ごとの動向

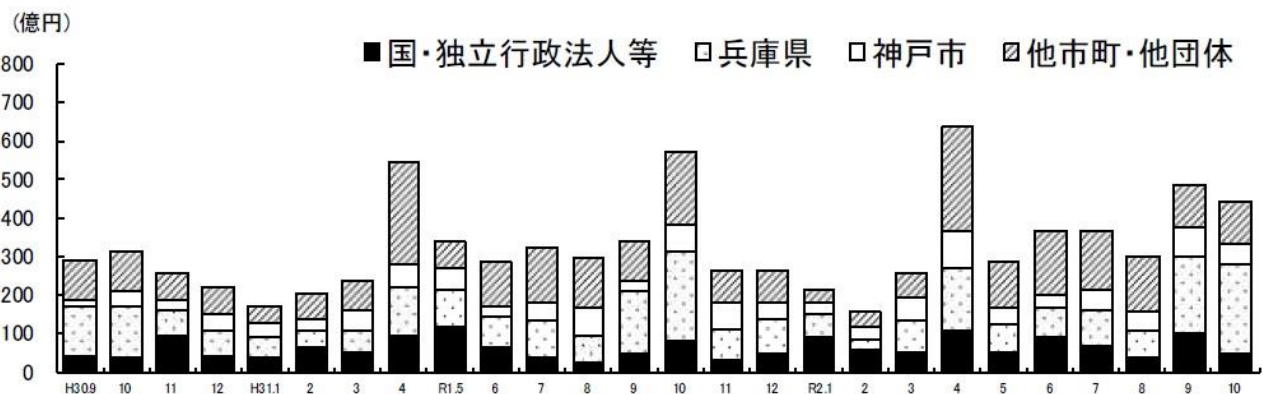
①建設業

【公共工事】

公共工事請負金額増減率

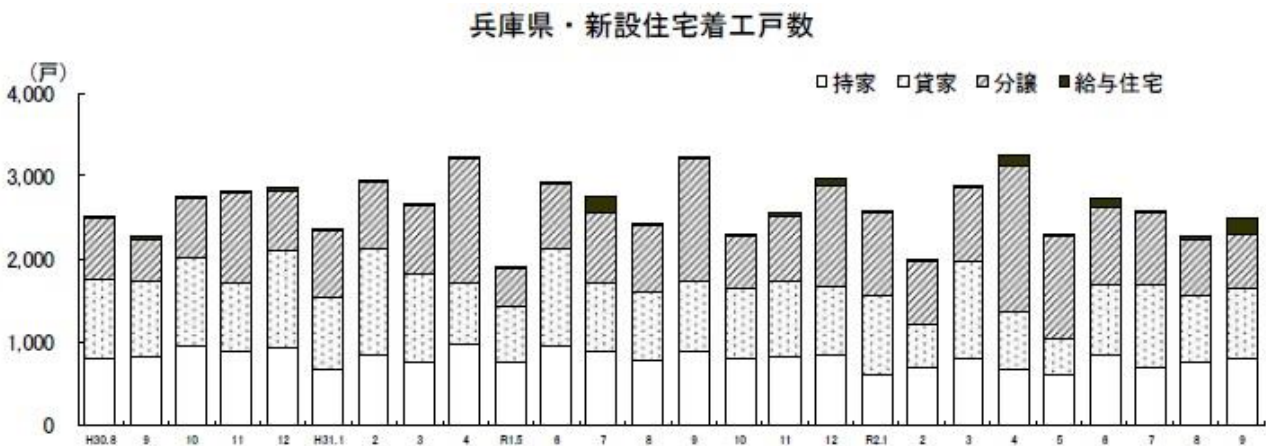
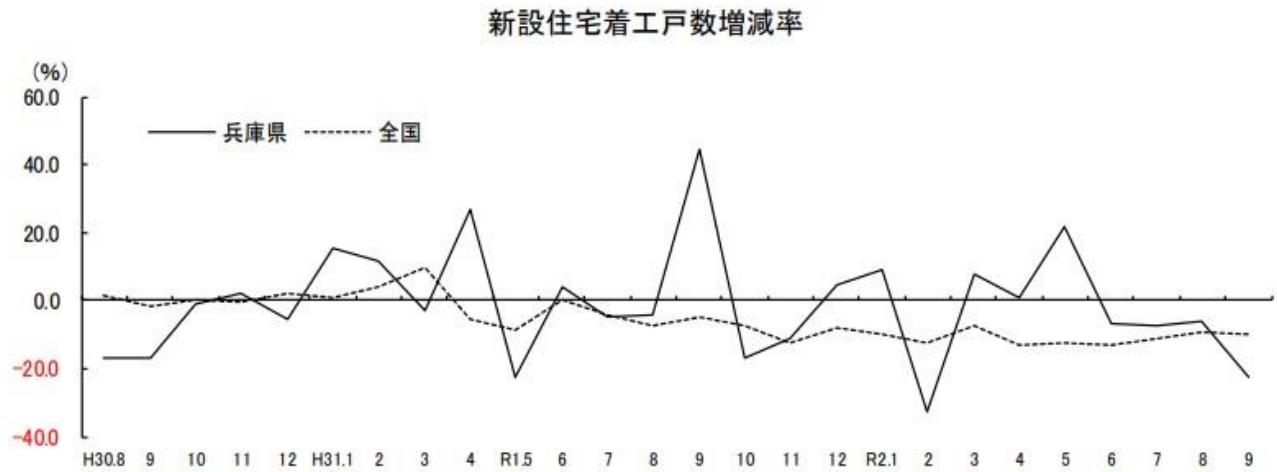


兵庫県・公共工事請負金額



6月～9月の間は県内の公共工事請負金額は前年同時期と比較し増加傾向となっていました。10月は落ち込みを見せています。発注元で比較したところ、兵庫県からの工事受注が増加している傾向があります。

【住宅着工】



新設住宅着工戸数について、9月は前年同月比より落ち込みを見せていますが、昨年は消費税増税前の駆け込み需要があったためと予想しています。新型コロナウイルス感染症が国内に広まりだしたのは2月以降であり、住宅着工数はその直後2ヶ月は影響を与えていますが、以降は横ばいの傾向となっています。

(出典 兵庫県「兵庫県の経済・雇用情勢」R2.11.27)

②製造業

【食料品製造業】

巣ごもり需要でスーパー向けの食材がかなり好調であったが、6月～9月はインバウンドに依存していた粉物チェーン店の消費が向上せず、イベントや祭りも中止や延期等になった影響で、業務用商品が低迷を続けている。

そのため記念日セールのほか、SNS等を使ったダイレクトトゥコンシューマー獲得を強化し、スーパー等の家庭用商品に注力している。

【電子部品・デバイス・電子回路製造業】

業界全体で太陽光システムへの投資時期の先送りが発生し、太陽光発電システム専用の電源用避雷器の受注は減少している。また、移動通信分野では、新規規格5G（第5世代移動通信システム）投資を見据えた既存設備の更新がされており、5G対応の受注は微増してきているが本格的に増加するのは来年度以降になる見通しである。

新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ需要は、多少の持ち直しとなっている。ただ、関東圏での避雷針の需要は依然として低水準で推移している。

【電気機械器具製造業】

輸入部品の入手遅延は概ね平準化したものの、受注の見通しが不透明である。雇用状況について、昨年引き続きエンジニアが不足しており、受注を断る事例も出ている状況である。今年度の採用活動は感染症を踏まえて例年より遅い開始となっているが、企業説明会にはオンラインを活用するなどの工夫を行っている。

【はん用機械器具製造業】

9月末決算に向け、7月からZoomやラインなどオンラインツールを活用する新たな営業方式に取り組んだ。その結果、営業成績は回復傾向になったものの、4、5月の成績低迷の影響は著しく、全体で見ると売上・利益ともに低調な推移となった。

今後コロナの影響がどうなるか不明だが、消費税増税のため低調な成績だった昨年度並みの売上は出せるよう努力していく。

【印刷業】

新型コロナウイルス感染拡大により、祭り・イベント等が自粛・延期を余儀なくされ、スーパー等のチラシ広告減少や、イベント用の宣伝ラベル販売が半減した。一方で、営業活動は、姫路エリアでは一部を除いて通常に戻っているが、関東エリアでは在宅勤務の増加により、取引先への訪問に支障が生じている。

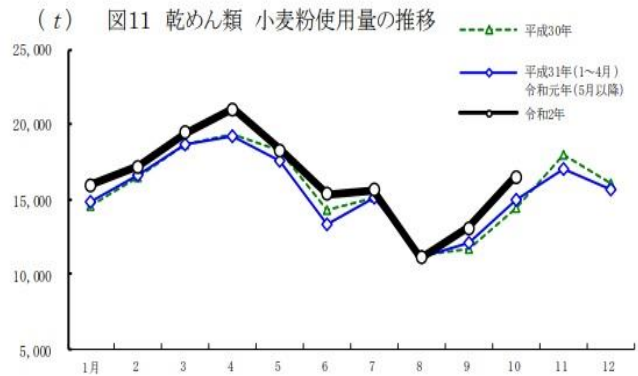
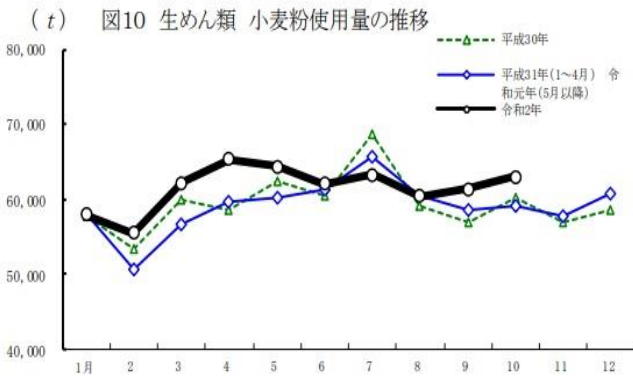
今後、紙媒体の広告がコロナ禍前の水準まで回復するのは難しいと思われるため、デジタル化への移行を促進し、HP作成など新たなビジネスを再構築したい。

(出典 兵庫県「兵庫県の経済・雇用情勢」R2.11.27)

【製粉子・同加工品（麺類）の推移】

生めん類の10月の小麦粉使用量は、対前年同月比6.4%とかなりの程度増加した。これは、中華めん（生めん、蒸しめん）は減少したものの、うどん（生めん、ゆでめん）、中華めん（ゆでめん、餃子等皮類）及び日本そば（生めん、ゆでめん）が増加したことによる。

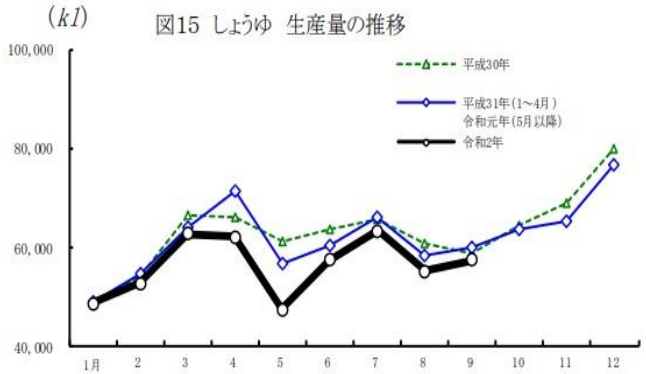
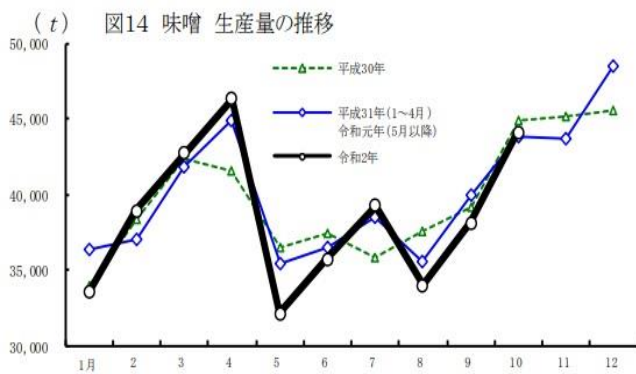
乾めん類の10月の小麦粉使用量も、対前年同月比10.1%とかなりの程度増加した。これは、ひやむぎ及び手延素麺類（ひやむぎ）は減少したものの、うどん、そうめん、手延素麺類（うどん、そうめん）、干し中華及び日本そばが増加したことによる。



【調味料の生産推移】

味噌の10月の生産量は、対前年同月比0.7%と前年並みとなった。これは、麦みそ及び豆みそは減少したものの、米みそが増加したことによる。

しょうゆの9月の生産量は、対前年同月比▲4.3%とやや減少した。



(出典 一般社団法人食品需給研究センター「食品製造業の生産動向」R2.12.10)

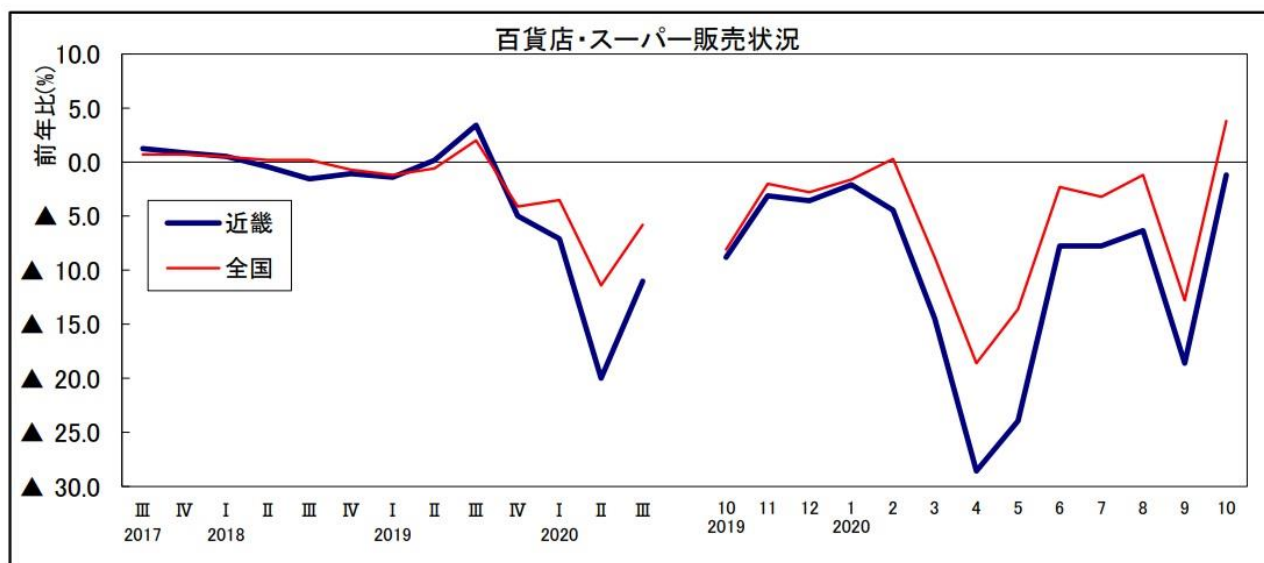
③小売業

【百貨店・スーパーを始めとする小売店の販売状況…前年同月比 1.2%減】

・10月の近畿地域の百貨店・スーパーの販売額は、新型コロナウイルス感染症によるインバウンドの減少や外出自粛の影響などにより、前年同月比1.2%減（全国3.8%増）と13か月連続で前年を下回った。

・百貨店40店の販売額は、全店ベースで前年同月比6.3%減（全国2.5%減）と13か月連続で前年を下回った。

・スーパー872店の販売額は、全店ベースで前年同月比1.5%増（全国5.8%増）と2か月ぶりに前年を上回った。



(単位：百万円、前年比%)

販売額		合計（百貨店＋スーパー）					
		近畿	全店	既存店	全国	全店	既存店
合 計		288,666	▲ 1.2	▲ 1.0	1,627,368	3.8	2.9
業態別	百貨店	101,951	▲ 6.3	▲ 4.9	416,334	▲ 2.5	▲ 0.8
	スーパー	186,716	1.5	1.4	1,211,035	5.8	4.5
商 品 別	衣 料 品 計	43,334	▲ 4.3	▲ 2.7	197,618	▲ 2.9	▲ 1.2
	紳士服・洋品	9,440	▲ 3.9	▲ 2.4	47,448	▲ 4.2	▲ 2.7
	婦人・子供服・洋品	30,482	▲ 5.8	▲ 4.4	132,886	▲ 4.5	▲ 2.7
	その他の衣料品	3,412	10.9	13.7	17,284	16.3	17.9
	身の回り品	16,228	7.6	8.8	70,999	8.0	9.1
	飲 食 料 品	174,057	1.2	0.9	1,060,334	4.7	3.2
	家具・家電・家庭用品計	9,427	0.9	1.6	56,752	8.6	6.8
	家 具	1,513	10.1	12.3	7,848	15.0	16.4
	家庭用電気機械器具	1,974	▲ 1.9	▲ 2.2	13,863	7.7	4.9
	家庭用品	5,940	▲ 0.2	0.2	35,041	7.6	5.3
その他の商品	43,534	▲ 8.7	▲ 8.2	232,084	4.9	4.5	
食 堂 ・ 喫 茶	2,086	▲ 29.0	▲ 27.9	9,582	▲ 21.8	▲ 21.2	

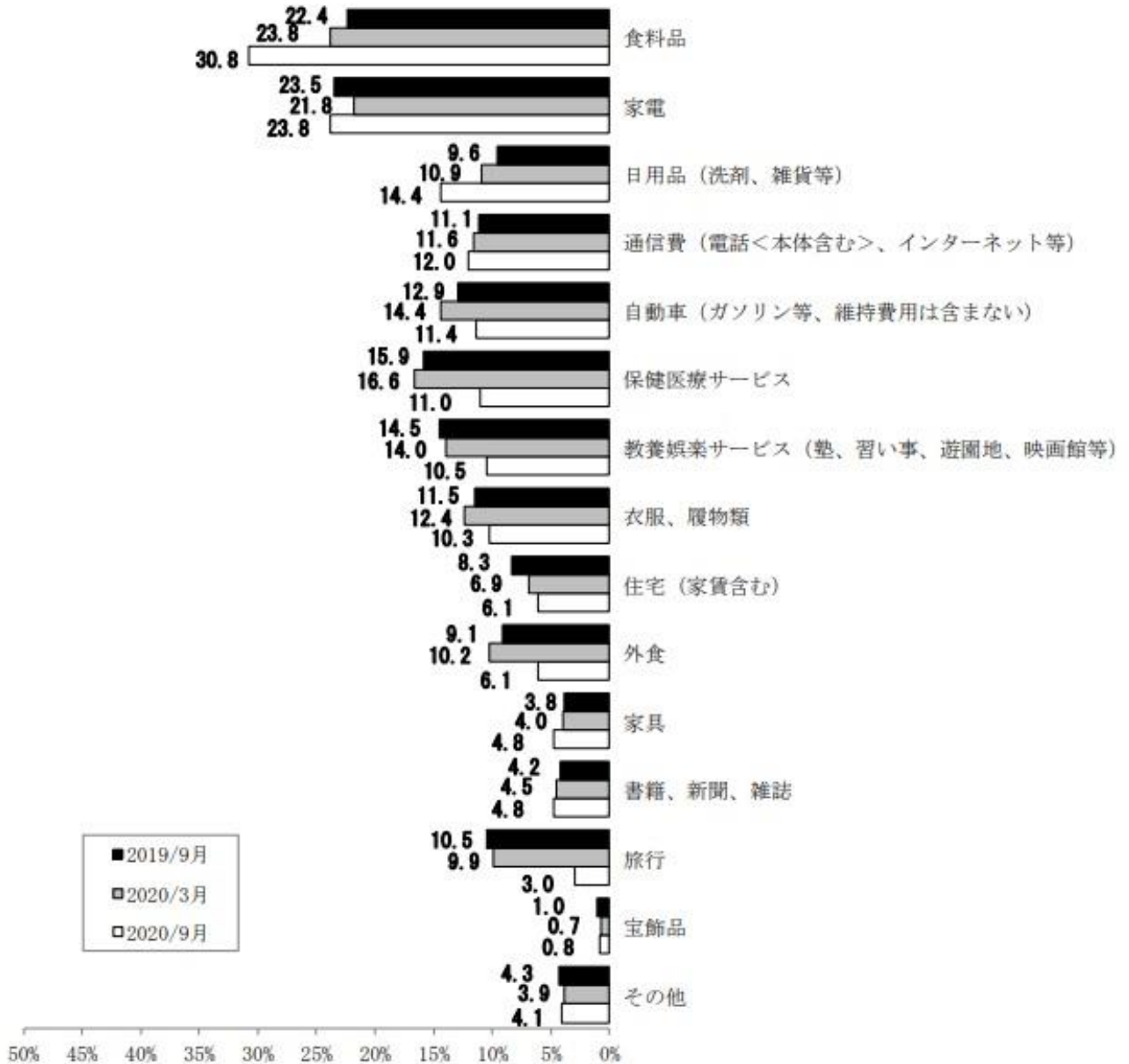
データ出所：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況(近畿地域)」

(出典 経済産業省 近畿経済産業局「近畿経済の動向」R2.12.16)

【消費者の動き】

「1年前と比べて支出金額を増やしたもの」という設問に対して、「食料品」という回答が一番多く、続いて「家電」、「日用品（洗剤、雑貨等）」の回答でした。一方で支出を減らした項目として最も多い回答は「外出」であり、この傾向は2020年3月の調査と同様の結果です。感染症の収束も見えず、今後も「家食」の流れは続くと考えられます。

また他に増加傾向となった「家電」は空気清浄機等の感染症対策の費用、「日用品」は緊急事態宣言が開けた後も外出自粛や在宅勤務などが継続している結果と考えられます。



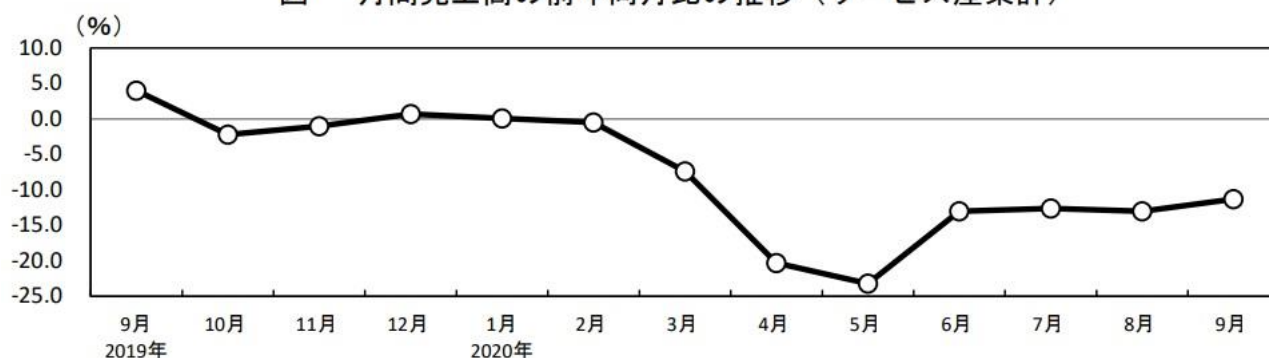
(出典 日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」R2.10.22)

④サービス業

【サービス産業の売上高】

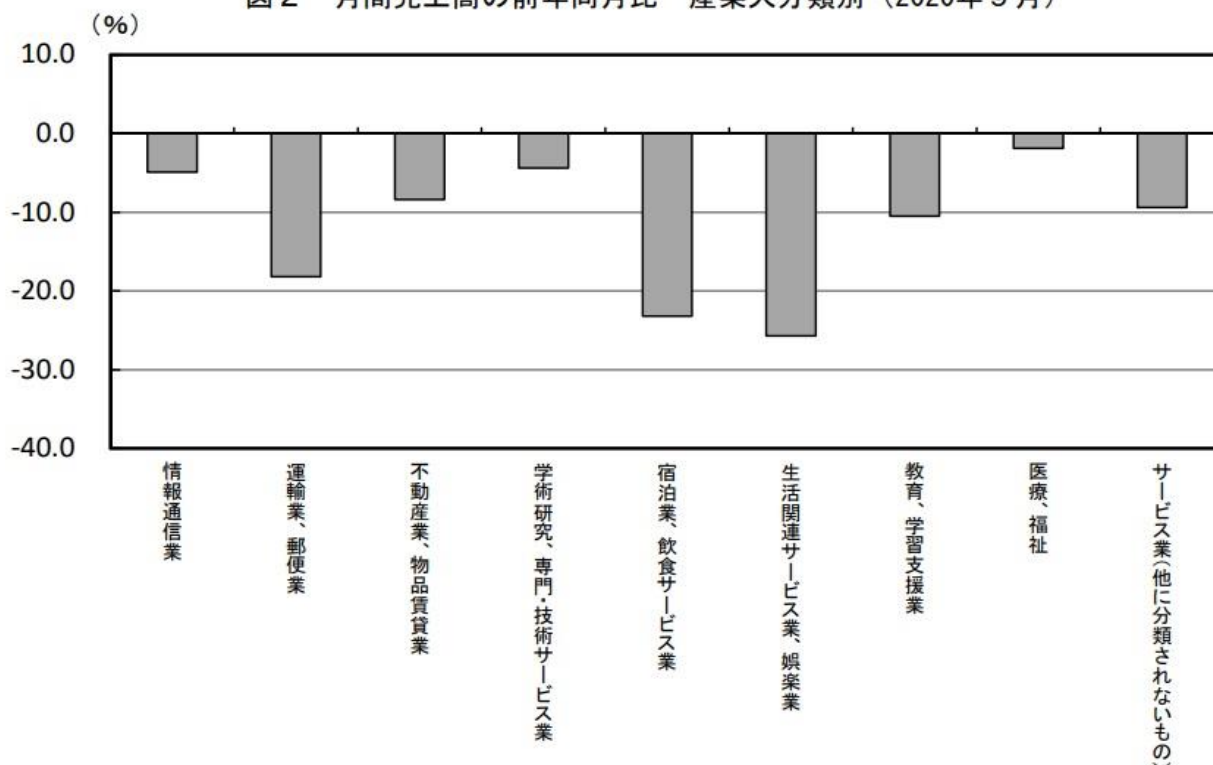
2020年9月のサービス産業全体の売上は29.6兆円、前年同月比11.3%の減少となりました。以下のグラフで見ると、感染症により自粛動向に向かった3月から減少し緊急事態宣言の4月～5月に前年度比20%以上の下落、6月に回復したものの、その後は前年度比約10%減少の売上が継続しています。

図 月間売上高の前年同月比の推移（サービス産業計）



以下は産業大分類別の売上状況の推移を表しています。下記分類の全てが前年同月比でマイナスとなっており、特に「運輸業・郵便業」「宿泊業・飲食サービス業」「生活関連サービス業・娯楽業」の落ち込みが大きくなっています。またこの3業種は売上高だけでなく、従事者数も減少傾向にあります。

図2 月間売上高の前年同月比—産業大分類別（2020年9月）



(出典 総務省「サービス産業動向調査」R2.11.30)

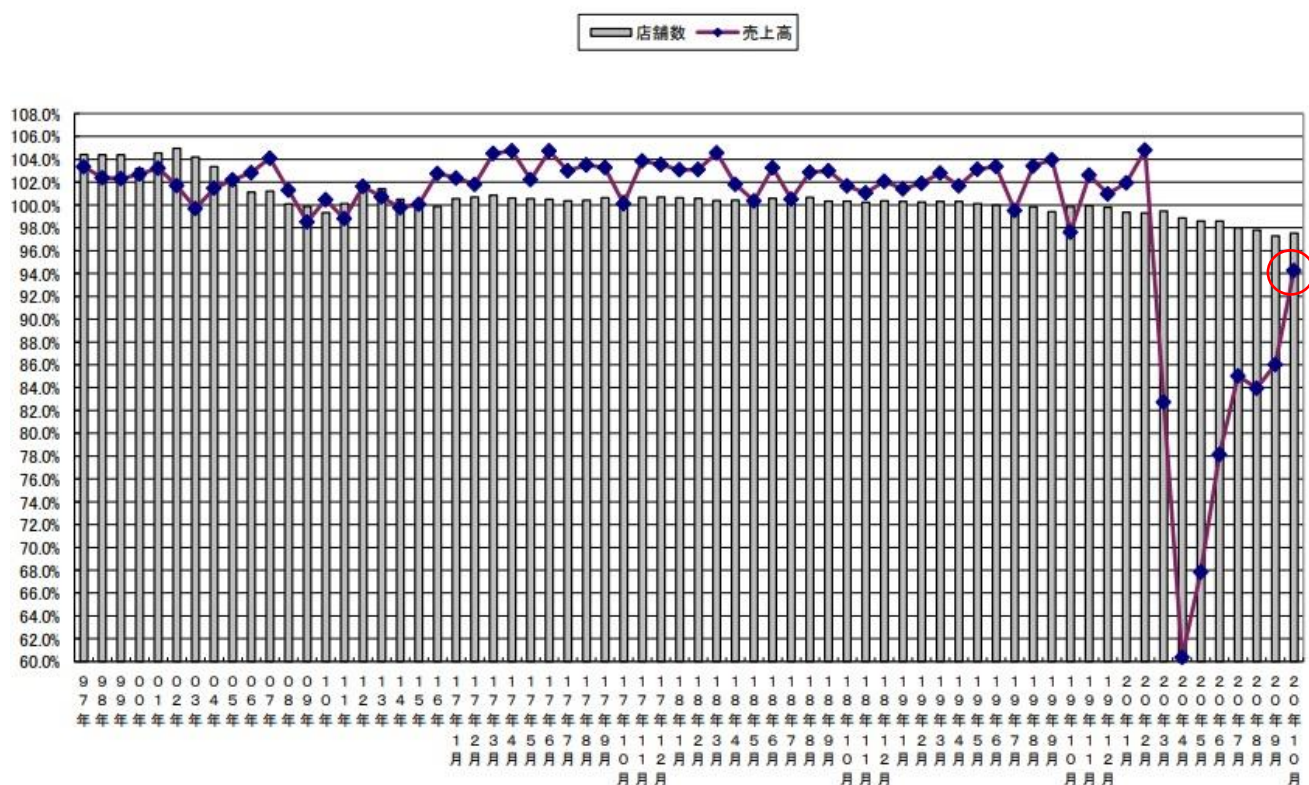
■外食市場 令和2年10月の動向

【売上は上向くも、全体や実質の分析が必要】

10月は新型コロナウイルス感染者数が比較的落ち着いており、飲食消費回復の支援策が国・自治体を中心に行われこともあって前年比94.3%まで回復した。しかし全体平均を上回ったのは「ファーストフード業界」「ファミリーレストラン形態の焼肉店」、売上が前年並まで回復したのは「持ち帰り米飯・回転寿司」「中華料理（テイクアウト有）」など限定されており、居酒屋形態や個人店の回復については厳しい状況が続いている。

またこちらは10月の結果であり、「第3波」と呼ばれ再度感染者が増加している11月以降は再び厳しい状況に直面すると考えられる。

売上高と店舗数の伸び率推移



○喫茶業態

人出が増えたことでターミナル駅周辺や商業施設で活気は戻ったが、依然としてビジネス街立地での客足の戻りが弱く、売上は79.0%にとどまった。

○パブ・居酒屋業態

飲酒業態は、繁華街立地の苦戦と法人の大規模宴会が戻らないことなどから、他業態と比べて明らかに回復が立ち遅れ、業態全体の売上は63.7%、「パブ・ビアホール」は売上53.6%、「居酒屋」は66.2%となった。

○ディナーレストラン業態

ディナーレストランは地方や観光地立地の店舗で一部回復がみられたが、繁華街立地や法人需要が多かった店は依然として厳しく、売上は79.6%となった。

(出典 一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」R2.11.25)

(参考文献)

兵庫県内中小企業の景況調査／株式会社みなと銀行
但馬管内の景気動向調査／但馬信用金庫
中小企業景況調査報告書／中小企業基盤整備機構
兵庫県の経済・雇用情勢／兵庫県
食品製造業の生産動向／一般社団法人食品需要研究センター
近畿経済の動向／経済産業省 近畿経済産業局
生活意識に関するアンケート調査／日本銀行
サービス産業動向調査／総務省
外食産業市場動向調査／一般社団法人日本フードサービス協会

「朝来市景況調査書」についてのお問い合わせ先

朝来市商工会

〒669-5201 朝来市和田山町和田山 404

電話：079-672-2362 FAX：079-672-4844

URL：http://www.asago.org/ メール：shokokai@asago.org